

日韓台の信用保証機関の効率性に関する研究

神戸大学大学院 金 景根

神戸大学 家森信善

日本、韓国、台湾は共に公的保証制度(Public Guarantee System)を運営している。この公的保証制度は、中央政府及び自治体の関与による公的な信用力と、公的部門と金融機関からの出資による信頼をベースにした機関保証が特色である。

日本においても韓国及び台湾においても、グローバル金融危機などの経済危機が発生した時に、信用保証制度は中小企業に対する資金支援を通じて経済危機の克服に重要な役割を果たした。韓国は日本に比べて信用保証制度の導入の歴史が相対的に短いにも関わらず、中小企業の資金需要を量的及び金融費用の側面から支援してきた。それゆえに、アジア経済危機やグローバル金融危機の際に、積極的な政策保証の提供を通じて経済危機克服と景気悪化防止という点で、大きな役割を果たしてきた。しかしながら、景気が回復するにつれ、拡大した信用保証残高が信用保証機関及び政府にとって大きな負担となりえる。また、日韓台は共に経済規模(GDP)対比での信用保証規模が大きく、貸出市場の機能を弱めているという指摘もある。

日韓台の経済において信用保証制度が重要な役割を果たしてきたことは確かであるが、その制度の効率性の改善は重要な課題である。公共部門は、利潤を追求する私的領域とは違って公益性を追求する特徴を持つが、このような公益性も効率的に追求されなければならない。しかし、公共部門に対しては、伝統的に効率性という概念自体が存在しにくいということであった(Jackson & Palmer, 1999)。しかし、このような伝統的な見方に対して、たとえ財貨とサービスの価格が存在しなくても公共部門間の相対的な比較評価を通じて公共サービスの効率性を高めるべきだという主張が説得力を得るようになった(Ammons, Coe & Lombardo, 2001)。現在では、このような相対的な比較評価方式は、公共部門の効率性測定の代表的かつ妥当性の高い方法として位置づけられている。

本論文では制度的な類似点が多い日本、韓国、台湾の公的信用保証制度を比較しながら、効率性についての実証研究を行いたい。それによって、信用保証機関の効率性を高める示唆を探りたいと考えている。その際に、3カ国の信用保証制度が類似していることに注目して、効率性の国際比較を行っている点が本論文の特徴である。これまでの先行研究では、各国の保証制度に関して制度的な特徴を定性的に比較することが多く、保証機関間の運営効率性を直接比較した研究は少ないからである。

具体的にはDEAモデルを利用して2017-2018年のデータに基づいて、日本51機関、韓国18機関、台湾1機関の効率性を測り、比較分析を行う。各国の中での信用保証機関間の効率性を比較するとともに、3カ国を一つにまとめて比較して効率性の順位を分析する。そして、Mann-Whitney検定によって、日韓の信用保証機関間の効率性の違いの検定も行う。最後にその結果に影響を及ぼしたと考えられる経済・社会要因について考察する。